

令和元年度  
業務年報

目次

1	沿革	1
2	業務概要	2
3	機構（組織・職員）	3
4	施設（土地・建物）	4
5	設備	5
6	業務実績	8
7	役員名簿	13

宮崎県機械技術センター  
公益財団法人 宮崎県機械技術振興協会

〒882-0024 延岡市大武町 39-82

TEL (0982)23-1100

FAX (0982)23-1104

URL <http://www.mmtc.or.jp/>

E-mail [info@mttc.or.jp](mailto:info@mttc.or.jp)

## 1 沿革

県北における工業技術に関する試験研究指導機関の歴史は、昭和 11 年に都城市北原町に設置された県立工芸指導所の延岡分所に始まる。その後、昭和 14 年に機械工訓育所が併設され、県北の産地型技術指導機関として中小企業の技術指導と技術者の養成に貢献した。しかし、戦後の混乱期に、これら指導所、訓育所は相次いで閉鎖の止むなきに至った。

その後、昭和 22 年に、戦後産業復興の一環として、工業の振興が本県産業の振興に寄与するとの観点から、昭和 23 年 3 月、県都宮崎市に、工業技術の振興を図るための総合的試験研究指導機関として県立工業試験場が設立され、都城市にはその分場として、昭和 22 年に設置されていた木工技術員養成所を吸収合併し、都城分場が設置され、その内容の充実が図られた。このような情勢の中、工業集積の高い県北では、昭和 35 年頃から、都城分場に対応する延岡分場の設置要望が起こり、特に、昭和 39 年に日向延岡地区が新産業都市の指定を受けて以来、分場誘致運動が活発となり、さらに、昭和 49 年に延岡市に鉄工団地が建設されたことで、機械・金属工業部門の技術指導機関設置への要望が一段と高まった。

これらの地元の要望に応じて県では、昭和 54 年 4 月に、第一次オイルショック後の県北の特定不況地域の指定に対応する施策の一環として、延岡市大武町に宮崎県機械技術センターを設立することとなった。

また、平成 18 年 4 月に、県から宮崎県機械技術センターの指定管理者として指定を受け、さらには、平成 25 年 4 月から「公益財団法人」として新たなスタートを切り、現在に至っている。

昭和 35 年	延岡商工会議所より工業試験場分場設置について陳情
昭和 45 年	延岡商工会議所より機械金属技術指導機関の設置について県に要望書提出
昭和 48 年	延岡鉄工団地協同組合より工業試験場分場設置について陳情
昭和 50 年	延岡市議会議長より県工業試験場延岡分場誘致に関する陳情書を県に提出
昭和 51 年	延岡市長、日向市長及び門川町長が連名で工業試験場分場設置について県議会に請願 県議会において請願採択
昭和 53 年	県議会において公の施設に関する条例の改正（宮崎県機械技術センターの設置）を議決 宮崎県機械技術センター建設工事着工
昭和 54 年	財団法人宮崎県機械技術振興協会を設立 宮崎県機械技術センター完成 宮崎県機械技術センター業務を開始。宮崎県は 4 月 1 日付けで宮崎県機械技術センターの 管理、運營業務の委託について、財団法人宮崎県機械技術振興協会と契約を締結 宮崎県機械技術センター竣工式を挙げる
昭和 55 年	昭和 55 年度より 3 ヶ年計画により指導設備の整備を実施
昭和 61 年	宮崎県機械技術センター強化整備計画により別棟工事着工（日本小型自動車振興会補助）
昭和 62 年	別棟工事完工 昭和 62 年度より強化整備計画による指導設備の整備を開始
平成 9 年	ホームページを開設し、情報発信機能を整備
平成 17 年	ホームページを再構築し、情報発信機能を強化
平成 18 年	指定管理者制度に基づき、宮崎県機械技術センターの管理者に指定（第 1 期：H18～H20）
平成 21 年	指定管理者制度に基づき、宮崎県機械技術センターの管理者に指定（第 2 期：H21～H25）
平成 25 年	公益財団法人宮崎県機械技術振興協会に移行
平成 26 年	指定管理者制度に基づき、宮崎県機械技術センターの管理者に指定（第 3 期：H26～H30）
平成 31 年	指定管理者制度に基づき、宮崎県機械技術センターの管理者に指定（第 4 期：H31～R5）

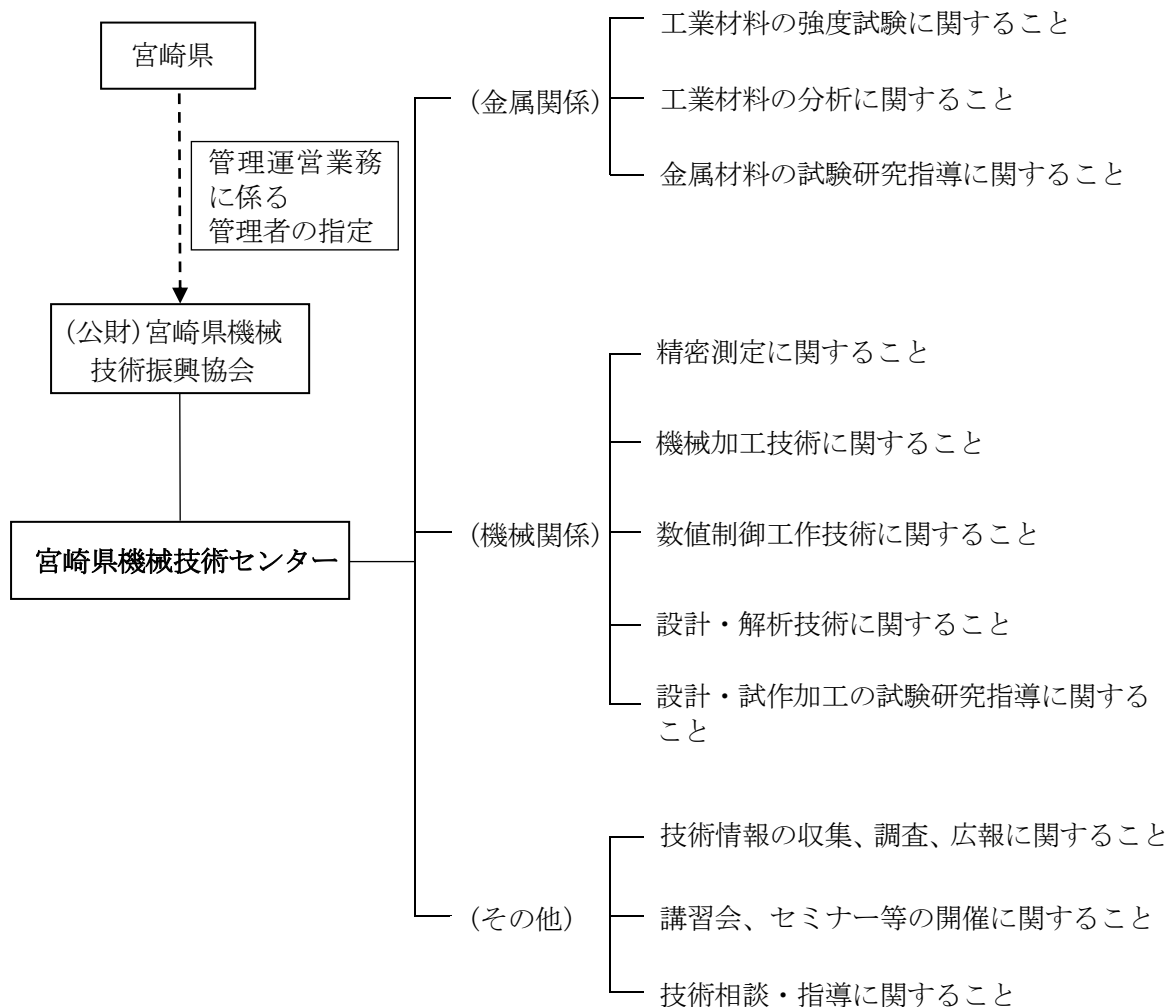
## 2 業務概要

宮崎県機械技術センター（以下「センター」という。）は、県内機械金属工業の振興を目的とし、主として県北を中心とする関連企業を対象に、機械金属技術に関する各種の支援業務を行っている。なお、当センターの管理運営は宮崎県の指定により、(公財)宮崎県機械技術振興協会がこれを行っている。

- (1) 技術の向上を目的とした業務
  - ① 技術相談・指導
  - ② センター機械設備の取扱研修の開催
  - ③ 技術講習会、技術セミナーの開催
  - ④ 専門家等派遣による現場指導又は技能伝承の実施
  - ⑤ ものづくりに係る品質向上の指導の実施
- (2) 試験研究に関する業務
- (3) 設備利用に関する業務
- (4) 依頼試験に関する業務
- (5) 先進地技術調査及び新技術導入のための派遣研修に関する業務
- (6) 宮崎県工業技術センター等他機関との連携に関する業務
- (7) 補助金等申請に関する支援業務
- (8) 情報の収集と発信に関する業務

### 3 機構

#### 3-1 組織



#### 3-2 職員一覧

(令和2年3月31日現在 7名)

職名	氏名	備考
所長	谷口 浩太郎	(公財)宮崎県機械技術振興協会常務理事
事務局長	山口 英子	(公財)宮崎県機械技術振興協会職員
主幹	村野 雄一	(公財)宮崎県機械技術振興協会職員
主査	知念 武志	(公財)宮崎県機械技術振興協会職員
専門技師	津田 洋行	(公財)宮崎県機械技術振興協会有期雇用職員
技師	奈須 美喜	(公財)宮崎県機械技術振興協会無期雇用職員
主事	黒木 美保	(公財)宮崎県機械技術振興協会有期雇用職員

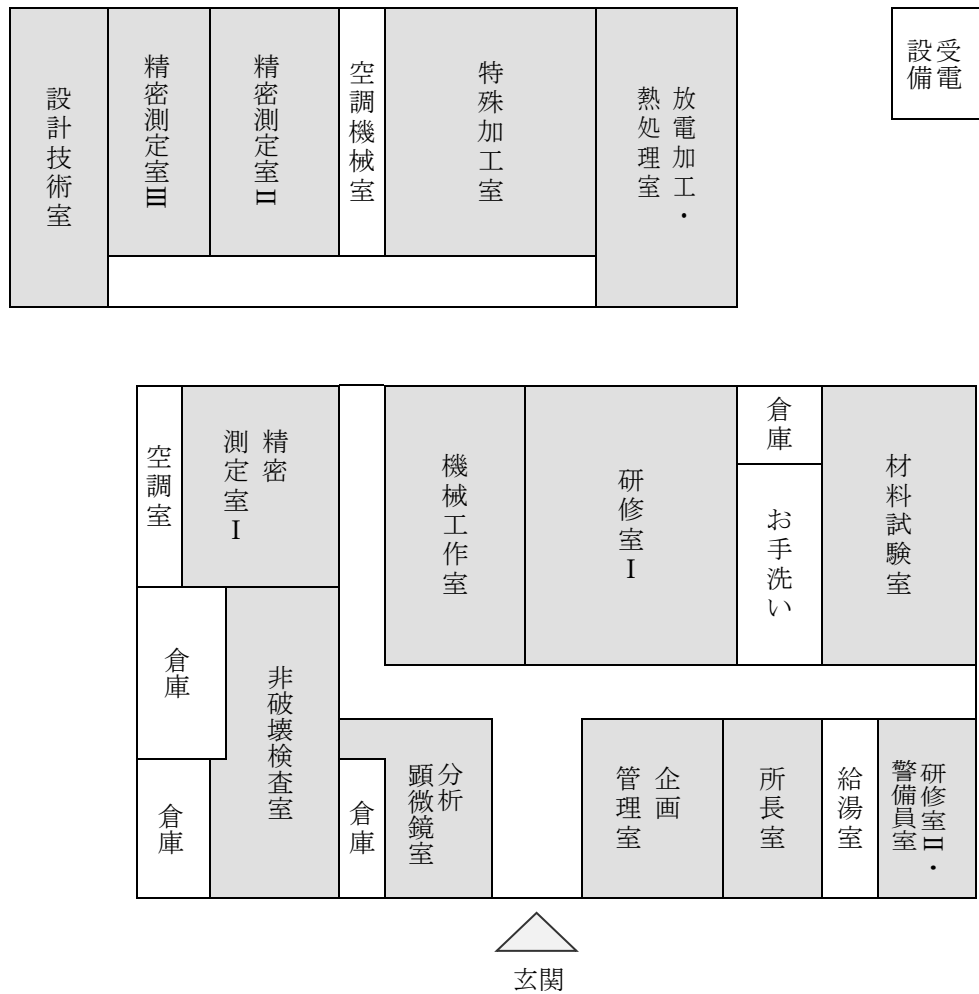
## 4 施設

### 4-1 土地・建物

所在地 宮崎県延岡市大武町 39 番地 82  
 敷地 2,682.45 m<sup>2</sup>  
 建物 787.59 m<sup>2</sup> (本館 540 m<sup>2</sup>, 別棟 226.5 m<sup>2</sup>, その他 21.09 m<sup>2</sup>)

企画管理室	30.3 m <sup>2</sup>	機械工作室	48.4 m <sup>2</sup>
所長室	20.2 m <sup>2</sup>	設計技術室	28.9 m <sup>2</sup>
研修室Ⅱ・警備員室	20.2 m <sup>2</sup>	精密測定室Ⅲ	21.4 m <sup>2</sup>
研修室Ⅰ	76.0 m <sup>2</sup>	精密測定室Ⅱ	33.2 m <sup>2</sup>
材料試験室	56.0 m <sup>2</sup>	特殊加工室	53.7 m <sup>2</sup>
精密測定室Ⅰ	42.0 m <sup>2</sup>	放電加工・熱処理室	45.0 m <sup>2</sup>
非破壊検査室	64.0 m <sup>2</sup>	給湯室	10.1 m <sup>2</sup>
分析顕微鏡室	40.4 m <sup>2</sup>	その他	197.79 m <sup>2</sup>

### 4-2 建物平面図



## 5 設備

### 5-1 主要機械設備

区分	設 備 名	製 造 会 社	型 式 ・ 能 力	設置年度
試 験 検 査	万能材料試験機（100トン）	島津製作所	UMH-100NIR型（100t）	S 53
	万能材料試験機（10トン）	東京衡機製造所	RU-10DA	S 56 ※
	工業用ファイバースコープ	オリンパス	IF8D4-15	S 63 ●
	ビッカース硬度計	明石製作所	AVK-C2	H 02 ●
	顕微鏡試料作製装置	丸本工業	ラボトム/プロントプレス-10	H 08 ●
	超微小硬度計	島津製作所	DUH-201S	H 08
	表面形状測定顕微鏡	キーエンス	VF-7500	H 10 ●
	ブリネル硬さ試験機	島津製作所	3000kgf	H 10
	三次元干渉測定顕微鏡	キヤノン	5010	H 11 ●
	デジタルロックウェル硬度計	アカシ	ATK-F3000L	H 12 ●
	オートグラフ	島津製作所	AG-5000B	H 05 ●
	超音波探傷器	湘菱電子	UI-23D	H 14 ●
	低真空走査電子顕微鏡	日本電子	JSM-6380LA/KM	H 16 ※
	デジタルマイクロスコープ	ハイロックス	KH-7700	H 21 ★
	マイクロビッカース硬度計	島津製作所	HMV-2	H 21 ★
	万能材料試験制御器（100トン）	島津製作所	UH-1	H 21 ★
	超音波顕微鏡	日本レーザー	SAM300	H 21 ★
	サーモグラフィー	NEC Avio	H2630	H 23 ☆
	超音波プローブ	日本レーザー	100MHz	H 23 ☆
	動ひずみ測定ユニット	東京測器研究所	TMR-222	H 23 ☆
オートグラフ制御装置	島津製作所	TRAPEZIUM2	H 23 ☆	
蛍光X線分析装置（エネルギー分散型）	島津製作所	EDX-8000	H 26 ※	
実体顕微鏡用デジタルカメラ	オリンパス	DP73	H 26	
赤外顕微鏡付きフーリエ変換赤外分光光度計	日本分光	FT/IR-6600・IRT-5200	H 29 ※	
熱 処 理	電気炉（18 kW）	サーマル	STL-5	H 09
	放電被覆肉盛り装置	テクノコート	42-50	H 11
精 密 加 工	超精密平面研削盤	三井ハイテック	MSG-250H2	H 01 ●
	砥粒流動研磨装置	東洋エクステル・トホーン	Mark V II-80	H 03 ●
	NCワイヤカット放電加工機	西部電機	EW-A5S	H 17 ○
	NC成形放電加工機	ソディック	A35R	H 17 ○
	精密万能自動切断機	平和テクニカ	HS-45A II S	H 17 ○
	ドリル研削盤	細井工作所	U-nice	H 13
	ドリルタップ盤	中根製作所	NXT-13DT	H 14
	万能工具研削盤	牧野フライス製作所	C-40	H 14 ●
平面研削盤	黒田精工	GS-63PF	H 21 ★	

	コンプレッサー	三井精機工業	ESCAL46R	H 23 ☆
精密測定	非接触二次元微細形状測定器	東京精密	サーフコム 920A	H 01 ●
	万能投影機	ミットヨ	PJ-311	H 01
	輪郭測定機	ミットヨ	CBH-400	H 02 ●
	CNC三次元測定機	東京精密	PA800A-V-60X	H 05 ●
	CNC三次元測定機	ミットヨ	FALCIO-Apex9166	H 18 ※
	真円度測定機	ミットヨ	ラウンドテストRA-736	H 17 ○
	工具顕微鏡	ニコインステック	MM-100AU	H 17 ○
	工具顕微鏡画像ユニット	ミットヨ	QSPAK	H 23 ●
	表面粗さ測定機	東京精密	サーフコム 480A-13	H 17
	マシンチェックゲージ	レニショー		H 17
	ボールバーシステム	レニショー	QC10	H 19 ※
	ダイヤルゲージ検査機	ミットヨ	アイチェッカ IC1000/KM	H 21 ★
	輪郭測定器	東京精密	コンタ-レコード 2600E-13	H 21 ★
	CNC三次元測定機用制御器	東京精密	PA800A-V-41X	H 21 ★
	非接触三次元構造解析顕微鏡制御器	キャノンマーケティングジャパン	ZYGO	H 21 ★
	真円度測定ソフトウェア	ミットヨ	ROUNDPAK-CMM	H 23 ☆
	工具顕微鏡画像ユニット	ミットヨ	QSPAK	H 23 ☆
レーザー計測システム	レニショー	XL-80	H 27	
レーザー計測システム用オプションユニット	レニショー	XL-80	H 29 ※	
設計	CAD・CAM・CAEシステム	PTC ジャパン	Pro Engineer WildFire	H 21 ※
	CADデータ変換・修正システム	エリジオン	CAD doctor	H 21 ※
	3D-CAD・CAM・CAEシステム	ソリッドワークスジャパン (株)	SOLIDWORKS	R 1
	非接触三次元形状測定機	コニカミノルタセンシング	Vivid9i	H 21 ※
	ラピッドプロトタイピング装置	Stratasys Inc.	Dimension BST1200es	H 21 ※
	熱流体解析システム	ソフトウェアクレイドル	SCRYU/Tetra	H 23 ※
	立体形状撮影システム	トプコン	Image Master Pro	H 23 ☆
	CAD用大型プリンター	キヤノン	Image PROGRAPH iPF 655	H 23 ☆
	試作支援加工システム	ローランド デージー	MDX-5000R	H 23 ☆
	精密自動回転ステージ	シグマ光機	KST-160YAW	H 23 ☆

※ JKA補助 ● 日本小型自動車振興会補助 ○ 活性化支援事業費補助

★地域活性化・経済危機対策交付金 ☆地域活性化交付金（住民生活に光をそぐ交付金）

## 5-2 設備料金表

番号	設備名	料金単価 (円/時)	番号	設備名	料金単価 (円/時)
1	CNC 三次元測定機 (ミットヨ製)	3,305	28	砥粒流動研磨装置	1,270
2	CNC 三次元測定機 (東京精密製)	3,305	29	万能工具研削盤	765
3	輪郭測定機	990	30	ドリル研削盤	340
4	真円度測定機	880	31	卓上フライス盤	90
5	工具顕微鏡	2,340	32	卓上ミニ旋盤	65
6	低真空走査電子顕微鏡	1,835	33	ドリルタップ盤	55
7	表面形状測定顕微鏡	1,800	34	電気炉 (18 kW)	1,005
8	実体顕微鏡	740	35	表面粗さ測定機	420
9	デジタルマイクロスコープ	1,470	36	マシンチェックゲージ	105
10	工業用ファイバースコープ	220	37	ラピッドプロトタイピング装置	1,665
11	万能材料試験機 (100 トン)	910	38	CAD・CAM・CAE システム	3,910
12	万能材料試験機 (10 トン)	1,625	39	非接触三次元形状測定機	1,335
13	オートグラフ	4,080	40	CAD データ変換・修正システム	1,110
14	超音波探傷器	420	41	超音波顕微鏡	1,260
15	デジタルロックウェル硬度計	365	42	ダイヤルゲージ検査機	430
16	ビッカース硬度計	630	43	試作支援加工システム	1,470
17	マイクロビッカース硬度計	500	44	サーモグラフィー	1,005
18	超微小硬度計	2,145	45	CAD 用大型プリンター	1,525
19	ブリネル硬さ試験機	325	46	熱流体解析システム	970
20	超音波硬さ計	130	47	立体形状撮影システム	710
21	反発式ポータブル硬度計	115	48	精密万能自動切断機	620
22	ボールバーシステム	675	49	蛍光 X 線分析装置 (エネルギー分散型)	1,820
23	試料研磨システム	435	50	赤外顕微鏡付き FT-IR	1,765
24	顕微鏡試料作製装置	500	51	実体顕微鏡用デジタルカメラ	1,250
25	NC 成形放電加工機	2,330	52	レーザー計測システム	1,220
26	NC ワイヤカット放電加工機	2,405	53	3D-CAD・CAM・CAE	1,700
27	平面研削盤	815			

(令和2年3月31日現在)



## 6 業務実績

### 6-1 技術の向上を目的とした業務

#### 6-1-1 技術相談・指導

企業から寄せられた様々な技術相談や技術指導の依頼に対応した。

技術相談 406件（100企業）

技術指導 262件（延べ298人）

#### 6-1-2 研修会、セミナー等の実施

企業の技術の向上を目指して各種の研修会、セミナー等を開催した。

##### ① センター機械設備の取扱研修

10コース 19回（延べ47人）

研修名	回数	延べ人数
新人研修	2	5
平面研削盤操作研修	1	1
三次元測定機基礎操作研修	1	8
国家検定機械検査受験対策講座（学科編）	2	5
国家検定機械検査受験対策講座（実技編）	3	11
SOLIDWORKS 構造解析	1	1
低真空走査型電子顕微鏡操作研修	2	2
蛍光X線分析装置操作研修	3	3
赤外顕微鏡（FT-IR）操作研修	3	9
H31年度 中堅教諭資質向上研修	1	2
合計	19	47

##### ② 技術講習会

4回（延べ79人）

実施日	講習会名	講師	参加人数
R1. 9. 13	低真空走査電子顕微鏡（SEM-EDS）の基礎セミナー	日本電子株式会社 西日本ソリューションセンター 主事 藤田憲市 氏	17
R1. 9. 27	産業用ロボットの基礎セミナー	(株) キヤドマック	23
R1. 10. 17	南海トラフ地震・津波のコンピューターシミュレーションとAI技術に関するセミナー	宮崎大学名誉教授 宮崎大学発ベンチャー企業（株） 地震工学研究開発センター 工学博士 原田 隆典 氏	25
R2. 2. 26	「3D-CAD・CAM・CAE活用」セミナー	1部 ソリッドワークスジャパン（株） 西日本営業所シニアテリトリーセールスマネージャー 篠田 孝氏 伊藤忠テクノソリューションズ（株） エンタープライズ技術第一部主任 大石 禎朗氏 2部 ソリッドワークスジャパン（株） 営業技術部シニアテリトリーテクニカルマネージャー 白神 岳氏	14

※令和2年3月実施予定だった2件のセミナーを新型コロナウイルスの影響で中止した。

### 各講習会の内容

低真空走査電子顕微鏡 (SEM-EDS) の基礎セミナー	走査電子顕微鏡の基礎についての座学と実機を用いた実践のセミナーを実施した。
最新産業用ロボットによる自動化ソリューション体験会セミナー	産業ロボットの最新情報と 3DCAD を使ったロボット動作作成ソフト (GoRoBo) 及び板金製造ソリューションの紹介及び実習を実施した。ロボット動作制作体感セミナーも実施した。
南海トラフ地震・津波のコンピューターシミュレーションと AI 技術に関するセミナー	地域の宿命でもある南海トラフ地震・津波に焦点をあてたコンピューターシミュレーションと AI 技術に関するセミナーを実施した。
「3D-CAD・CAM・CAE 活用」セミナー	新規導入した 3D-CAD・CAM・CAE の活用セミナーを実施した。

### ③ 技術セミナー

他県のものづくり中小企業の成功事例をテーマとしてセミナーを開催した。

日時： 令和元年 11 月 19 日 (火) 16:00~18:00

会場： エンシティホテル延岡 3F サウスオブハウストン (延岡市紺屋町 1-4-28)

主催： (公財)宮崎県機械技術振興協会

共催： 延岡鉄工団地組合

後援： 延岡市、延岡商工会議所、宮崎県工業会、宮崎日日新聞社、夕刊デイリー新聞社

出席者： 44名

演題： 「町工場の変革と挑戦」～既存市場から競争のないブルー・オーシャンへ

講師： 三元ラセン管工業株式会社 代表取締役会長 高嶋 博 氏

内容： 三元ラセン管工業はフレキシブルチューブとベローズの設計・製造をしているモノづくりの会社である。一時は若者の製造業離れ、価格競争や売上減少で経営危機になり、追い打ちをかけるように先代の急死で取引先も減少した。そこから、製造卸から直接販売へ方向転換し、Web サイトやブログなど SNS や展示会で集客し、量産しない経営で成果を上げ、今では国内外から取引会社 1200 社を超えている。また、IT を活用した情報共有の取り組みで残業なし、休暇の取りやすい風土も実現している。

このような取組内容は 2017 年 関西 IT 百撰 最優秀賞をはじめ、他多数の賞を受賞し、NHK や民放のメディアで数多く紹介されている。

中小企業が生き残る道を考える上で、大変参考になる講演となった。

### 6-1-3 専門家等派遣による現場指導又は技能伝承

1 件 (延べ 4 回)

令和元年度高校生溶接技術競技会九州大会に臨む日向工業高校生の溶接スキル向上のため、溶接技能に長けた専門家を派遣し、アーク溶接技能の現場指導を行った。

受講者	専門家	内容	実施日
日向工業高校生 (申請者： ひまわり工業会)	原田 芳男 氏 ((株)アキタ製作所)	アーク溶接技能の指導	R1.9.24
			R1.9.25
			R1.9.26
			R1.9.27

#### 6-1-4 ものづくりに係る品質向上事業

6社（延べ7件）

企業の製造現場で使用される工作機械等の精度を維持するため、職員を企業に派遣し、現場に検査装置を持ち込んで工作機械や三次元測定機等の精度検査を行った。

#### 6-2 試験研究に関する業務

県北地域の企業と2件の共同研究を行った。1件目は、(株)昭和、関西大学、京都大学、産業技術総合研究所、(公財)宮崎県産業振興機構、宮崎県工業技術センターと共同で、内視鏡外科手術におけるハンズフリーコミュニケーションシステムの開発を行った。

本事業の分担研究として、当協会は(株)昭和と連携して、眼電位・筋電位等の生体信号による空間描画等の機能を付与した装置の設計・試作に取り組んだ。2件目は、吉玉精鍍(株)、福岡県工業技術センターと共同で、クロムめっき老廃液再生の実用化技術の開発に取り組んだ。

#### 6-3 設備利用に関する業務

設備名	利用件数	時間数	収入額（円）
CNC 三次元測定機（ミットヨ製）	67	127	419,735
輪郭測定機	42	43	42,110
低真空走査電子顕微鏡	23	35	63,490
表面粗さ測定機	21	25	10,420
平面研削盤	15	26	21,190
赤外顕微鏡付きFT-IR	12	16	27,855
ダイヤルゲージ検査機	11	12	5,100
蛍光X線分析装置（エネルギー分散型）	11	18	32,550
電気炉（18kW）	9	14	14,070
オートグラフ	7	9	36,495
その他	68	126	105,835
合計	286	451	778,850

#### 6-4 依頼試験に関する業務

区分	試料数	収入額（円）
引張試験	50	119,000
曲げ試験	10	23,800
圧縮試験	132	201,300
試験成績書副本作成	2	800
合計	194	344,900

## 6-5 先進地技術調査及び新技術導入のための派遣研修

<p>先進地 技術調査 (18回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リチウムイオン電池の現在・過去・未来 (日向市)</li> <li>・顕微 LIBS 元素分析システムについて (延岡市)</li> <li>・装置・機器レンタルのメリット 購入がいいとは限らない (延岡市)</li> <li>・粒度分布測定の基本 (延岡市)</li> <li>・ラマン分光法の基本・最新事例の紹介 (延岡市)</li> <li>・知的財産権制度説明会 (宮崎市)</li> <li>・赤外分光法による異物解析のコツと赤外線スペクトルの読み方のテクニック (延岡市)</li> <li>・イノベーション・ジャパン 2019 (東京 (ビッグサイト))</li> <li>・中小企業新ものづくり展 2019 (東京 (ビッグサイト))</li> <li>・3Dプリンター最新技術動向 (宮崎)</li> <li>・3Dプリンターカーボン類強化材造形装置調査 (宮崎)</li> <li>・X線CT非破壊装置体験研修 (島津製作所 京都)</li> <li>・ハンズフリー手術支援ツール試用調査 (京都大学医学部病院 京都)</li> <li>・太陽光パネルセミナー</li> <li>・第6回設備サポートセンター整備事業シンポジウム</li> <li>・工業技術センター令和元年度研究成果発表会 (宮崎市)</li> <li>・第3回 宮崎テックプラネタグランプリ</li> <li>・環境イノベーションマッチングフォーラム (宮崎市)</li> </ul>
<p>新技術導入 のための派 遣研修 (10回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Cradle Scryu/Tetora 基礎コース (大阪)</li> <li>・デジタルエンジニアリングセミナー (宮崎市)</li> <li>・第26回技術・研究発表会 (宮崎大学 宮崎)</li> <li>・solidworks3D-CAD 基本コース (延岡市)</li> <li>・SimulationPremium スクール (延岡市)</li> <li>・FlowSimulation スクール (延岡市)</li> <li>・ビジネス事例に見る卒FIT後の太陽電池 (宮崎市)</li> <li>・赤外顕微鏡基礎セミナー (日本分光 東京)</li> <li>・3Dものづくりセミナー (3Dプリンター他) (宮崎市)</li> <li>・EDX 操作研修 (島津製作所 京都)</li> </ul>

## 6-6 宮崎県工業技術センター等他機関との連携に関する業務

県工業技術センターと連携して技術指導、技術相談、設備利用、試験研究等に取り組んだ。

## 6-7 研究会運営の支援

主に延岡鉄工団地内企業の若手経営者による研究会 (チーム延岡 0X) や(一社)宮崎県工業会県北地区部会の新事業・販路開拓分科会等に定期的に参加し、技術的側面から情報提供やアドバイス等の支援を行った。

## 6-8 補助金等申請支援に関する業務

3件 (延べ7回)

設備投資や新事業展開のために外部資金獲得を目指している企業に対して、ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金や中小企業庁の研究開発補助金 (サポイン事業) の申請書作成支援を実施した。

## 6-9 センター業務の公開・周知

- ① ホームページの更新（年20回）  
4月（1回）、5月（1回）、6月（2回）、7月（3回）、8月（1回）、9月（1回）、  
10月（2回）、11月（3回）、12月（3回）、1月（3回）、2月（2回）、3月（1回）  
1年間のアクセス件数：4,186件
- ② 情報誌「2020 技術情報」第38号の発行（3月発行300部）
- ③ メールマガジンの発行（年16回）  
7月（1回）、8月（2回）、9月（2回）、10月（2回）、11月（2回）、  
12月（3回）、1月（3回）、2月（3回）、3月（1回）に発行
- ④ 見学受け入れ  
延べ126名

## 6-10 企業巡回訪問

延べ72社を訪問し、企業のニーズ調査を行った。

## 6-11 利用者満足度調査

センター利用のサービス水準の向上を目的として、利用者の満足度の調査を行った。利用者219名に送付し76名から回答を得た。回答結果は今後のサービス内容の改善に生かす。

## 6-12 業務推進委員会

センター運営の充実や改善を図るため、県北企業の代表者や幹部ならびに行政機関や関係団体の担当者（計11機関）を訪問し、センターに対する意見や機器設置の要望等の聞き取りを行った。今後、意見や要望をもとに、機械設備の整備や運営方法の改善を検討する。

## 6-13 機械技術センター連携促進事業に関する業務

### 6-13-1 県北地域のイノベーション創出のための取り組み

県が策定した「みやぎ産業振興戦略」に基づいて、産学官の24機関で組織する「イノベーション共創プラットフォーム」と連携し、県内に埋もれた技術シーズの発掘・事業化を支援した。

#### ① 「宮崎テックプランター」事業への参画

（宮崎テックプランターとは、県内企業が抱える技術的課題について、県外の大企業等と連携することで解決策を探るなど、技術シーズの事業化を後押しする創業支援プログラム。）

県北部地域の企業を中心に広く周知するとともに、新事業に取り組む県内企業等のニーズ・シーズを把握し、県北企業の宮崎テックプランターへの参加を支援した。

#### ② 大学等と企業とのマッチング機会の取り組み（4件）

大学が持つシーズと県北部地域の企業ニーズを結びつける「場」として、宮崎大学 産学・地域連携センターとの連携により、マッチングのための宮崎大学企業巡回訪問を令和元年10月30日に実施した。

具体的には、技術的課題を抱える県北3企業を宮崎大学の工学系や農学系の専門家の先生に訪問していただき、直接現場を確認した後、課題解決に向けたミーティングを実施した。その他、生産技術能力を有する企業1社の要望に応じて宮崎大学とマッチングする場を設定した。

### 6-13-2 機械技術センターの利活用促進の取り組み

- ① センター利用者の新規開拓  
綾町、日向市等のものづくり企業を新たに訪問し、利用促進のPRを行った。
- ② 職業体験実習生の受け入れ（令和元年11月26～29日）  
日向市キャリア教育支援センター等が主催する「14歳のよのなか挑戦」に参画し、日向市立大王谷学園中等部の生徒2名について職業体験学習の受け入れを行った。

## 公益財団法人 宮崎県機械技術振興協会

本協会は県内の機械金属工業の振興を目的として、宮崎県・延岡市・日向市・門川町の出資により、昭和 54 年 2 月 17 日に設立され、平成 25 年 4 月に公益財団法人に移行し、次の事業を行っている。

- (1) 機械金属工業の技術指導及び調査研究
- (2) 機械金属工業に関する情報及び資料の収集
- (3) 宮崎県機械技術センターの管理運営
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

なお、宮崎県機械技術センターの管理運営は、平成 18 年 4 月より指定管理者制度を導入し、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項、宮崎県の公の施設に関する条例(昭和 39 年宮崎県条例第 7 号)第 10 条の規定に基づき宮崎県より委託されており、また、機械技術センター手数料等の徴収事務も委託されている。

### 役員名簿

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

評議員	酒井	剛	(宮崎大学副学長)
評議員	園田	徹	(九州保健福祉大学副学長)
評議員	中田	哲朗	((公財)宮崎県産業振興機構理事長)
評議員	山本	卓也	((一社)宮崎県工業会専務理事)
理事長	読谷山	洋司	(延岡市長)
副理事長	吉玉	典生	(延岡鐵工団地協同組合理事長)
理事	黒木	清	(延岡商工会議所専務理事)
理事	黒木	正一	(日向商工会議所専務理事)
理事	甲斐	睦央	(延岡地区建設業協会事務局長)
理事	浜本	和樹	(日向地区建設業協会事務局長)
理事	松本	健二	(高千穂地区建設業協会事務局長)
理事	佐藤	彰洋	(旭化成(株)延岡支社延岡総務部長)
理事	中平	勝也	(旭有機材(株)管理本部総務部延岡本社担当部長)
理事	中園	徹郎	((株)中園工業所代表取締役会長)
理事	熊谷	俊一	(延岡市商工観光部長)
理事	福田	幸一	(日向市商工観光部長)
理事	久米	佳郎	(門川町まちづくり推進課長)
常務理事	谷口	浩太郎	(宮崎県機械技術センター所長)
監事	酒井	修平	(延岡市シルバー人材センター理事長)
監事	岩田	一男	(門川町商工会事務局長)